

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・朝のオリエンテーションで理念を唱和し意識向上、理念の共有に努めている。 ・プラン作成とケア方法の判断に迷った際は、理念に立ち返るようにしているが、認知・身体状況の重度化や取り組みへの工夫が足りず十分に実践しているとはいえない。			・毎日のオリエンテーションでの理念の唱和を継続し、職員間での意識づけを今後も図っていく。 ・理念を実践へ繋げるため、ひとつでも多く地域と関わる場面をもつことやケア、サービス内容での工夫を図っていく。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことで今年度原ヶ平夏祭りが開催されるとのことで、感染状況を鑑みながら参加する方向で検討している。 ・地域の回覧板などを活用してはどうかという意見はあるが、実施には至っていない。地域との新しい関わりが依然見い出せていない。 ・同圏域のグループホームとの連絡会も現状開催は未定で、関係性は希薄である。職員から近隣住民と挨拶を交わす程度である。	・現時点では、事業者・入居者ともに参加できるような地域活動は無かった。地域の夏祭りへ見学に行くという計画を立てていることは評価できる。 ・この3年間と同じでは何も変わらないと思う。感染対策を行いながら新型コロナウイルスが流行した前に徐々に戻していく話し合いが必要だと思います。 ・新型コロナウイルスが5類感染症に移行したため、状況を鑑みながら地域との交流や関わり方を再検討する必要がある。 ・少しずつ地域へ出るまたは、触れ合う機会を設けることで入居者の方々の刺激につながると感じる。		・新型コロナウイルス感染状況を鑑み、感染防止対策を講じながら地域行事や活動への参加を少しずつ増やしていく。また入居者さまと共に散歩へ出掛けるなど地域や住民と触れ合える場面をもつようにしていく。 ・人と会う以外でホームのことを何か発信できる機会を検討、実施していく。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・感染防止対策を講じながら会議を実施することができている。 ・会議では入居者さまの生活状況の他、予め議題を設定しそれらに対する意見や助言を頂き、サービスの質の向上に活かしている。	・会議では取り組みやその内容、反省についてしっかりと伺っている。 ・会議で意見を出し合い質の向上に活かしていければと思います。 ・年間計画を事前に委員に知らせてほしい。年度末に文書で依頼と予定が分かれば助かる。		・感染防止対策を講じながら運営推進会議をできる範囲で開催する。 ・開催が中止となっても、書面でのやりとりを継続していく。 ・運営推進会議の年間計画を予め構成員の方々へ年度末に文書にて通知する。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・運営や加算関係にかかる確認・連絡のやりとりはあるが、事業所の実情やサービスなどの取り組み内容を伝える場面はなく関係性を構築して	・市町村担当と連絡を密に取ることは難しいと思うが、嶽陽会本部へ実情やケアサービスの取り組みを報告している点は評価できる。		・今後も運営状況や確認事項については、必要に応じて行政の担当者と連絡を取り合うようにしていく。 ・弘前市南部包括支援センターとのやり

				<p>いるとはいえない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を講じながら運営推進会議を開催し、弘前市福祉部介護福祉課長宛てで参加の依頼をしており、今年度は1度参加してもらっている。 ・弘前市南部地域包括支援センターより他法人 GH では運営推進会議を開催していない所が依然多いとのことで、情報共有を図ることはできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の担当者とはささいなことでも確認作業を行うことで関係性が築けると思います。 ・今後の積極的参加及び交流に期待したい。 		<p>とりから、他法人 GH との情報共有や交流を図ることができる機会を設けていく。</p>
5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p>	<p>代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としてマニュアル・指針を整備している他、勉強会、身体的拘束適正化検討委員会の開催により、弊害や権利擁護などへの理解を職員間で共有し実践するように努めている。 ・物理的な身体拘束の実施はないが転倒リスクがある入居者さまが多く、その対応により他入居者さまに待つ頂く場面が依然として多いため、介助の見通しや時間を伝え相手の受け止め方への工夫を図っている。 		<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切なケアは虐待に繋がってしまう恐れがあるグレーゾーンであることを理解する。 ・身体的拘束適正化検討委員会などにおける学習の他にも不適切な場面があれば、職員間でケアの見直しや事例検討を行い改善や日々の気づきに繋げていく。
6	<p>虐待の防止の徹底</p>	<p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としてマニュアルを整備し、朝のオリエンテーションや勉強会の開催により心身への弊害、権利侵害の側面、不適切ケアが虐待の芽となることを職員全体で意識するようにしている。 ・職員からの提案をできる限り取り入れ、お互いにフォローし合えるように努めることで職員一人一人が心に余裕をもてるようにしているが、業務が立て込んでくると伝え方や言い回しがきつくなる場面がある。 		<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントの分析や原因究明を継続し、予防策を確実に実践していくようにする。 ・業務がせわしなく心に余裕がない時に不適切な対応となりやすいため、職員からの意見や提案を取り入れ働きやすい環境づくり、またお互いにフォローしあうことでストレスを溜めないようにしていく。
7	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p>	<p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の他は制度の理解や支援の活用に至っていないが、弘前市西部地域包括支援センター主体にて成年後見制度について、法人の GH 合 			<ul style="list-style-type: none"> ・今年度法人の GH 合同勉強会で、弘前市西部地域包括支援センター主体にて成年後見制度について学ぶ機会があった。今後も権利擁護に関する制度の勉

				同勉強会で学ぶ機会を設けている。			強会を計画し、知識の習得に努めていく。
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・契約時・介護報酬改定時は重要事項説明書を基に運営や事業所の体制・加算・サービス内容などの説明を行うとともに、不安や疑問点の聞き取りをおこなっている。 ・退居の際は十分な説明と情報提供を行いご本人・ご家族の不安が少なくなるように努めている。			・今後も制度や報酬改定による重要事項説明書の変更などがあつた際には、不安な点や疑問点の聞き取りを行い、解消できるような説明と対応をおこなっていく。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・日頃の入居者さまとのやりとりやご家族の面会の場面において、困りごとや意見などを述べて頂けるような話し方に努めている。 ・ご意見箱を設置するとともに苦情受付に関する文書を掲示している。 ・前回目標に掲げたご家族との面談は実施できていないが、運営やサービスについて毎月の面会時に意見、要望を尋ねるようにしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・引き続き面会時やケアプランの見直し時にご家族より意見をもらうようにしていく。その際事前に来て頂ける日を確認、時間を設けてもらい運営やサービスについて様々な意見を抽出できるようにしていく。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・ミーティングや会議の中で提案できる機会を設けている。 ・日常の各場面において各職員に意見や提案を尋ねたり、普段の会話から挙がった意見は受け止め実践するように努めている。			・ミーティングや会議の他にも、日頃から職員とのコミュニケーションを密にし日常会話の中から出た意見や提案を大事にしていく。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・キャリアパスに沿って年2回の人事考課を通して個々の能力や実績評価・日頃思っていることなどの把握を行い、やりがいや働きやすさ・給与への反映に繋げている。 ・目標達成への評価から目的・向上心を持って取り組むことができるように努めている。 ・改善には至っていないが、夜勤のあり方や休憩時間の工夫などについて		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	人事考課を通じたスキルアップの他にも、職場の人間関係や休みの取りやすさなど「働きやすい職場」の視点を持ち、長く法人で働くことのできるように努めていく。

				て話し合うことができた。			
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・対面型の他、オンラインを活用し法人内外の研修を受ける機会を確保している。外部研修への参加予定も増えてきている。 ・人事考課表や面談を活用し個々の課題に合わせた指導育成に努めている。 ・事業計画にある勉強会では、テーマ別に各職員が講師を担ってもらうようにしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・人事考課を通して、一人一人の課題を明確にしながスキルアップを図ることができるように努めていく。 ・法人内外での研修参加、ユニットや法人内GH同士での勉強会を継続し、知識の習得に努めていけるようにしていく。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行したが、現状として地域の会議、圏域の連絡会の開催がされず他グループホームとのかかわりや交流は未だなされていない。新たな取り組み内容もない。 ・法人内グループホームとは日頃から情報交換をおこなっている。			・法人内GHでの管理者参加の会議や意見交換にとどまっているため、今後は地域包括支援センター主催の会議に参加をしたり、地域の福祉などのネットワークに関わる機会があれば参加をしていく。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・身体状況の重度化や介助量の増加に伴い、職員から一方的な支援になることが多い。 ・可能な範囲ではあるが、なるべく皆が役割を持ち家事を一緒に行うなどしている。 ・食事や活動などの時間を共有し一体感を感じて頂きながら馴染みの関係作りに努めている。			・身体状況の重度化がすすむ中でも共同生活の理念を大事にし、今後も引き続き食事や活動の時間を共有しながら一体感を感じたり馴染みの関係作りを支援していく。 ・ご家族へは生活状況を随時お知らせし、協力体制を仰ぎながら共に生活を支援できるような体制に努めていく。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・感染防止対策を講じた上で居室での面会、ご家族の対応で自宅などへ外出することが少しずつ増えてきている。 ・電話があった際は本人に取り次ぎ馴染みの関係が途切れないよう対応している。	・評価項目に対して記述を見ると、しっかり行われていると思う。 ・新型コロナウイルス感染防止対策のため面会ができず、認知症が進行した方がいると思うので面会や外出の機会に繋げてほしい。 ・今後も継続していただきたい。このよう		・入居者さまにとって馴染みの場所や人と接することができるように、感染防止対策を講じ、ご家族の協力を得ることで対応できるようにしていく。

				<ul style="list-style-type: none"> ・本人の同級生などからの急な面会依頼があっても本人の関係性を確認した上で、対応できるようにしている。 ・面会の制限が緩和されたことによる心理的な支援や、通院の対応など徐々にご家族からの協力体制が確保されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・な対応を地域活動においても実践していくことを希望する。 		
--	--	--	--	---	--	--	--

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時の面談の他随時、ご本人・ご家族へ在宅時の過ごし方、趣味、嗜好など生活歴を確認し、一人一人の思いや過ごし方に関する要望の把握に努めている。 ・コミュニケーションを工夫し、その時の入居者さまの意向を尊重するように努めている。 ・記録や申し送りにより体調・認知症状の共有に努め、サービス内容に随時反映させている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・入居時の面談においてご本人、ご家族から生活歴や在宅時の過ごし方、趣味、嗜好の把握に努めていく。 ・認知症状により思いや意向の確認が困難な方であっても、表情や会話の中からその時の気持ちを汲み取りサービスに反映できるように努めていく。
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画作成時はご本人・ご家族から意見を頂き反映している。 ・申し送りノートの活用その他、日々のコミュニケーションの中で職員一人一人から随時意見をもらうが、皆で集まって話し合う機会がなかなかもてていない。 ・医療面に課題がある時は医師や法人看護師から情報を収集し、状態の見通しを立てながら計画に反映している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者個々に各職員が対応にあっているのだから会議は難しいと思う。 ・月に1回はスタッフ会議を行い話し合う機会を設けてはどうか。 ・介護計画については、職員全員(関係者全員)が集まって話し合う場を設けていただきたい。 ・職員の正しい理解の元、介護計画が遂行されることを願います。 	<ul style="list-style-type: none"> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の日々のコミュニケーションを密にし普段から意見や提案をやりとりできるようにしていく。 ・生活上の課題を明確にしていくため、議題を設け短時間でも会議を開催する。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活状況を個別記録に残し、職員間での情報共有と一人一人へのケア、介護計画の見直しに活用している。 ・記録物だけでなく日々の申し送りや口頭で入居者さまの行動や言動を伝えることで、認知症状に対してケア 		<ul style="list-style-type: none"> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体状況や認知症状の変化に留意し、随時のアセスメント結果をケアプランに反映し計画作成担当者からの周知、共有をおこなっていく。 ・記録物のみではなく、日々の申し送りの他口頭でも入居者さまの行動や言動をこまかく伝え、統一したケアができるよ

				の統一を図っている。			うにしていく。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・認知症状や身体状況の重度化により、グループホームの設備や人員配置では限界を感じご本人、ご家族へその旨を説明するものの最期までお世話になりたいとの要望もあり、特養などへのサービスの移行がうまくいっていない。 ・身体介助量が多く、認知症状への支援に手がまわっておらず支援方法の見直しもできていない。	・No.11の内容が改善しないと若い職員が増えないのではないか。 ・職員の業務量の改善が必要だと思います。入居者へのサービスに影響が出てくると思います。 ・入居者の方の症状が悪化し、対応が困難な場合は、サービス移行については利用前から説明しておく必要がある。		・事業所の性質や入居者さまの身体状況を踏まえ、現在のサービスが入居者さまの負担や生活の質に影響していないかを随時検討していく。ご本人、ご家族へも入居前や入居後も丁寧に説明し、サービスが移行しても介護支援専門員との連携をサポートしていく。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・感染防止対策を講じながらドライブ外出の実施の他、実習生の受け入れを再開している。また原ヶ平夏祭りへの参加を検討中である。 ・地域に触れる機会が徐々に増えてきているが、人的ネットワークの構築には至っていない。	・漬物作りやお菓子作りなど、地域や身近な人を講師に招いてはどうか。 ・同法人の事業所と連携できることがあるのではないか。 ・限られた条件の中で徐々に新型コロナウイルス流行前に移行するよう努力していただきたい。 ・新たな視点も必要ではないか。 ・南部地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加してはどうか。 ・無料の出前講座を利用してはどうか。		・近隣の散歩の他ドライブに出掛けるなど、地域に触れる機会を少しずつ増やしていけるようにする。 ・原ヶ平夏祭りの他、南部地域包括支援センター主催の認知症カフェの参加を検討していく。 ・漬物作りやお菓子作りなど講師に来て頂ける方がいるか、地域住民代表者や町会長に伺ってみる。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・入居時は馴染みの関係性を重視し、在宅時のかかりつけ医を継続できるように支援している。 ・その他はご本人・ご家族の納得が得られた医療機関を受診し移動や付き添いの支援をおこなっている。 ・外来が難しくなった時は継続して受診ができるよう、訪問診療などの調整をおこなっている。			・在宅時からのかかりつけ医を継続して受診できるように支援し、関係性が途切れないようにしていく。 ・身体状況により外来通院が難しくなった際は事業所の協力医療機関との連携について説明し、訪問診療などの調整を図っていく。

22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・入院した際は速やかに医療機関への情報提供を行いました、担当者と退院後の受け入れ体制についての相談・情報交換から早期に退院ができるように努めている。 ・入院中はご本人の状態確認と、ご家族や医療機関との情報交換及び退院に向けた調整を定期的におこなっている。 		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・入院された場合には医療機関への情報提供を行い、担当者と退院後の受け入れ体制についての相談・情報交換から早期に退院ができるように支援していく。 ・退院時は生活上の留意点を医療機関へ確認、把握した上でホームでの生活を安心して送れるように反映していくようにする。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期のあり方について、日頃からご家族に対し病気や身体状況の見通しを示しつつ理解しやすいような説明をおこなっている。 ・ご家族の意向を踏まえつつ事業所の性質や方針を共有し、随時サービスの移行を検討している。 ・地域の関係者の支援は組み込んでいない。 		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に重要事項説明書に記載してある重度化や看取りに関しての説明を行い、事業所に対応できる内容を丁寧に説明していく。 ・入居者さまの状態の変化に合わせて随時ご本人、ご家族との面談の機会を設け、終末期における意向やその後の具体的なサービス内容を検討していくようにする。 ・看取り時は地域の医療体制を確認し、チームで支援に取り組んでいく。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に勉強会を実施し急変時の対応を学ぶ機会を設けているが、発揮する場面が少なく自信をもって対応できるとはいえない。 ・常に併設通所介護事業所の看護職員と連携を図っている。事故発生時はご家族への報告を密に行い適切な対応となるように努めている。 		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内や事業所内の勉強会のテーマとして「急変時の対応」を取り入れ、実践的な内容を学ぶ機会を設けている。また習得した知識は全職員で共有するようにしている。 ・事故発生時は必要に応じて看護職との連携やご家族への報告を密に行い、適切な対応となるように努めていく。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input checked="" type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回火災想定総合消防訓練と毎月ユニット内における消防訓練をおこなっている。 ・食糧や水・ストーブの備蓄品の他、BCP(業務継続計画)の策定と併せて発電機の購入を検討している。 ・地域との協力体制が殆どなく、訓練も火災に特化し実施しているため他の災害についての訓練や準備に不足がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害に対してはほぼ問題ない地域だが、地震に対しては訓練が必要であると感じる。 ・BCP(業務継続計画)を作成することで避難方法が周知されると思います。 ・今後ますます災害時の対応が求められると考えるので、計画を立て一つずつ準備を進めていくことが必要である。 	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<ul style="list-style-type: none"> ・自家発電設備の設置を法人内で検討中である。 ・地域の人々を交えた災害対策を検討していく他、BCP(業務継続計画)の策定と併せて、総合的かつ実践できるような対応をひとつでも多く各職員が意識し身につけるようにしていく。 ・毎月のユニット内における避難訓練にて、地震など別の災害についての訓練を実施していく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>・入居者さま個々の認知症状や性格・習慣の理解に努め対応しているが、業務効率上職員本位で行動をお願いしてしまうことがある。 ・排泄や更衣などの場面では羞恥心やプライバシーに配慮しているが、転倒リスクなどの対応で不十分になっている。</p>	/	<p>A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>・今後も入居者さま個々の認知症状や性格・習慣の理解を深め、ご本人の意思を尊重した対応に努めていく。 ・排泄や入浴介助、また転落や転倒リスクがある方への対応などやむをえない部分がある中でも、常に羞恥心などの配慮を意識することで、プライバシーの侵害への影響を少なくしていく。</p>
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<p>A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>・その都度一人一人のペースを尊重した支援に努めているが、入居者さまの身体機能の重度化・介助量の増加に伴い職員側の都合で、ある程度過ごし方を決めてしまうことがある。 ・行動を依頼する時はお願いするような伝え方など、相手の受け止め方に配慮した接遇を心掛けている。</p>	/	/	<p>・一人一人のペースや生活習慣を尊重した対応に努めていくが、入居者さまの身体機能の重度化・介助量の増加に伴い行動を依頼する際は、お願いするような伝え方や相手の受け止め方に配慮した接遇に今後も留意していく。</p>
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>・準備や後片付けを可能な範囲で入居者さまと一緒にこなっている。 ・感染防止対策をとりながら入居者さま同士がテーブルを囲み団らんの時間をとるようにしている。 ・定期的に昼食の出前をとる、おやつ作りの行事をおこなっている。</p>	/	<p><input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>・食事の時間を生活上の楽しみや他者との交流など社会的な側面を有することを理解していく。 ・食事の準備や後片付けを可能な範囲で入居者さまと一緒にこなったり、入居者さま同士でテーブルを囲み食事ができるよう、今後も継続していく。 ・食事の出前や弁当を注文したり、手作りのおやつを味わうなどの支援を継続していく。</p>
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>・外部業者より納品している、栄養バランスを考慮したクックフリーズを調理している。 ・食事や水分摂取量、体重・BMIを観察し不足している時は体調や好みに合わせた物で補っている。 ・食事動作、促しの介助が多くなっている。ケア方法や食事形態・用具の工夫を図り、なるべくご自分で召し上がることができるよう支援している。</p>	/	/	<p>・現状の食事で栄養バランスはとれていると思われる。食事や水分摂取量、体重やBMIなどの測定、体調や健康面から見た栄養補給など状態に合わせた対応を今後も継続していく。 ・認知症状により摂取動作が困難である場合には、少しでもご自分で召し上がることのできる支援を行いながらも状況に応じて介助を行うようにする。</p>

30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・口腔ケアの重要性を全職員で意識し毎食後、一人一人の身体機能に応じた方法で口腔ケアの誘導・介助をおこなっている。 ・機能維持のため口腔体操をおこなっている。 ・法人の協力歯科医からケアへの助言を頂き、口腔ケアへの意識と技術の向上を図っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・口腔ケアの重要性を全職員で意識していく。 ・今後も毎食後に一人一人の身体状況や認知症状に応じた方法で口腔ケアの誘導や介助を確実に実施していく。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・個々の身体機能や排泄間隔を把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。 ・パッド類は必要最低限の使用としている。 ・牛乳や水分を多めに摂って頂くが、便秘者が多く下剤に頼っている現状がある。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も個々の身体機能や排泄間隔を把握し、体の負担とならないように注意しながら可能な限りトイレでの排泄を支援していく。 ・随時排泄に関しての状態を確認しながら、パッドや紙パンツは必要最低限の使用となるようにしていく。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・週2回の入浴を目安としているが、入浴回数の確保の都合上、おおよその曜日や時間帯を決めお願いしている。			・週2回の入浴を目安としているが、入浴日や時間はご本人の生活のペースを尊重しつつ対応していく。 ・入浴前のバイタルチェックや体調確認、入浴時の見守りを確実にを行い安心して入浴できるように支援していく。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・一人一人の習慣や体調、疲労感に応じ、休息や安眠ができるように支援している。 ・睡眠障害がある時は日中の活動を考える、かかわり方を工夫する、室温などの環境を整えたり改善が難しい時はかかりつけ医へ相談し対応している。			・今後も一人一人の習慣や体調、疲労感に応じ、室温や寝具などの環境を整えながら休息や安眠ができるように支援していく。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・個別に管理し服薬内容を常に把握できるようにしている。 ・処方薬は職員で管理している。 ・服薬の影響と症状の変化の確認に努め、特に処方変更時は注意して観察している。 ・服薬時は名前や薬袋の読み上げ、		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・薬剤情報は個別にファイルし、服薬内容を常に把握できるようにしていくとともに、特に処方変更時は服薬の影響と症状の変化の確認に努め、身体状況と症状の変化に注意して観察していく。 ・処方薬は職員で管理し服薬時は名前や薬袋の読み上げ、複数名での確認を

				複数名での確認を確実にこなっている。			確実にこなっていく。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・日頃から明るく話題を持ってかかわるようにし、時には冗談を交え相手の気持ちが活気づくようにしている。 ・生活に根ざしたアクティビティの実践を図っているが、限られた方のみ対象となっており不足がある。 ・毎日の体操などの活動の他、月毎におやつ作りなどの行事を設定しているものの既存のものが多く新しい提案はなされていない。	・楽しみごとや気分転換に既存のものを大いに活用して良いと思います。その人に合った支援で良いと思います。 ・入居者の方々の状態が異なる中で、全員が同じレクリエーションで楽しむことは難しいと思う。状態別や対象者を限定したレクリエーションを実施するなど、工夫してはどうか。		・入居者さま個々の身体状況や認知症状況を把握し、調理のお手伝いや洗濯物などその方に合った生活に根差したアクティビティの実践を可能な範囲で今後もこなっていく。 ・日々の介助の中で少しでも気持ちが活気づくような会話を取り入れるようにしていく。 ・過ごし方にメリハリがつけられるように、時には外気に触れたり新しい作業にチャレンジするなどし意欲が湧くような機会をもつようにする。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・希望に沿えない時もあるが少人数でのドライブ外出、感染防止対策を講じた上で、ご家族の対応で自宅や外出に出掛けることが少しずつ増えてきている。 ・普段のかかわりの中で新聞の写真や風景を活用し話題となるように対応している。	・施設側での対応だけでは難しいと思うので家族の協力は必要だと思います。 ・外出できないのであれば、写真や映画鑑賞(DVD)を活用してみてもどうか。		・敷地内や近所への散歩の他、感染症の状況を把握しながら少人数でも外出できる機会を少しずつ増やしていく。 ・普段のかかわりの中で写真や動画を活用し、話題となるようにしてみる。 ・外出時は店舗や観光スポット以外にも住んでいた地域や、時にはご家族の協力のもと自宅にも寄ることができるような支援を設けていく。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・ドライブ外出など外に出る機会が多くなってきているが、感染のリスク回避のため、現状入居者さまがお金をやりとりする場面がない。 ・認知症状により所持している金銭を紛失してしまうため、職員での管理が主である。			・感染症の状況を鑑み、商品を手にとって買い物ができるような場面や自動販売機での購入を通しお金を扱う場面を増やしていく。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・希望に応じて家族に自ら電話をする支援をする他ご家族からの電話を本人に取り次いでいるが頻度は少ない。 ・ご家族より手紙が届いた際には一緒に読み上げ、内容に共感する支援			・今後も要望に応じて事業所内にある電話を使用して頂き、ご家族とやりとりする機会を設けるようにする。 ・希望があれば手紙や年賀状を出せる支援をおこなっていく。

				をおこなっている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・環境が与える認知症状への影響を理解し、家庭的な家具や植物の配置、季節に応じた装飾・温度調節・カーテンや照明による明るさの調整に努めている。 ・業務がたてこんでいる時でも、入居者さまの前では走らないように心掛けている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も家庭的で穏やかな雰囲気を感じられるように努め、植物の配置や装飾、照明や音の調整などから混乱や焦燥感に繋がらないように注意していく。 ・業務がたてこんでいる時でも、入居者さまの前を通る時はなるべく走らないようにする。
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・業務効率や新型コロナウイルスの影響により制限をお願いすることが多い。 ・職員本位な部分もあり意向に沿っているとはいえない。 ・各場面において日常的に意向を確認しているが、認知症状が重度かつ意思疎通が困難な方については表情や心身の状態を観察し安楽で無理のないようなケアに努めている。			・入居者さまへ関わる場面において日常的な意向の確認を継続して行い、認知症状が重度かつ意思疎通が困難な方については表情や心身の状態を観察し安楽で無理のないようなケアに努めている。 ・直接入居者さまへ尋ねる他、普段の会話の中から日々思っている事や要望を抽出できるような対応を心掛けていく。
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・生活歴や生活習慣、趣味・嗜好などの情報をご本人やご家族、入居前のサービス事業者から情報収集しケアに反映するように努めている。 ・入居後の生活ぶりからも観察し活かすようにしている。			・今後も随時ご本人の生活習慣、趣味・嗜好などの情報をご家族や入居前のサービス事業者から情報収集し、入居前の生活や人との繋がりを継続できるように支援していく。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・認知症状によりご自分で症状を訴えることや健康管理が困難な方が大多数であるため、随時の体調確認の他・服薬管理や受診の支援をおこなっている。 ・転倒リスクの高い方が多く、センサーの活用や随時の付き添いをおこなっている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・認知症状によりご自分で症状を訴えることや健康管理が困難な方が大多数であるため、今後も随時の体調確認の他服薬管理、受診の支援をおこなっていく。 ・転倒リスクの高い方が多いため、リスクの予見を意識した付き添いやセンサーの活用により怪我を防止していく。

43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・集団生活がベースにあり事業所で定めた日課が主になっているが、その中でも在宅時のペースを尊重し、なるべく反映できるようにしている。 ・普段の会話や「はい、いいえ」で答えられる質問にて意向を確認しているが、認知症状によりその時の意思の把握が難しい時は体調や疲労感、表情など心身の状態により判断している。			・集団生活がベースにあり事業所で定めた日課が主になってしまうが、その中でも個々の生活習慣やペースを尊重したケアを意識し、その時の意向を反映したり在宅時の生活リズムが継続できるような支援をおこなっていく。
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・入居時に生活環境の継続性の意義をご本人・ご家族へ説明している。在宅時と同じ家具や大事にしている物、家族の写真などを置くことで、安心感や環境変化による心理的なダメージに配慮している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も入居時には生活環境の継続性の重要性をご本人・ご家族へ説明し、在宅時の居室環境や家族の写真などを整備し、安心感を得たり環境変化による心理的なダメージに配慮していく。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・介助量の増加による業務の影響により、要望があってもすぐに出掛けることができている。対応まで日数がかかったり、敷地内の散歩などとどまることもある。 ・感染防止対策を講じた上で、ご家族の対応で自宅や外食などの外出、自宅への外泊など出掛けることが少しずつ増えてきている。	・職員が入居者一人一人についているわけではないので仕方がないと思う ・外出は家族の協力を得た方が良いと思います。 ・職員が対応できない場合は、家族またはボランティアを活用する方法はどうだろうか。またできることから積み重ねていくことで良いのではないだろうか。		・ご本人、ご家族から要望があれば実施の見通しを説明し、実現できるように努めていく。感染防止対策を講じながら、ご家族の協力を積極的に仰いでいく。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・その人の「できること」に着目し、個々に持っている能力を発揮できるように、家事などの役割や余暇活動、生活動作の実施に反映しているが業務状況により介助してしまう場面も多い。			・できないことよりもその人の「できること」に着目し、個々の能力や意欲を発揮できるように家事や余暇活動の中で役割をもてるように支援していく。
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・身体機能や認知症状の重度化が著しい中でも、活気を引き出すようなかわりやアクティビティの実践を可能な範囲で行うようにしている。 ・業務をしながらもテレビを視聴している入居者さまに話題を提供したりするもの、業務がたてこんでくると		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も身体機能や認知症状の重度化がある中でも、業務をしながらも話題を提供したり、活気を引き出すようなかわりやアクティビティの実践を可能な範囲で行うようにしていく。

				かかわりをもてていない場面もある。			
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・感染防止対策を講じながら原ヶ平夏祭りへの参加を検討している。 ・新型コロナウイルスが5類感染症に移行されたものの交流の場はまだ殆どなく、新たな提案や取り組みもない。	・近所を散歩して挨拶を交わすことができれば良いと思います。 ・感染のリスクを考えると以前のような状況にはまだ時間がかかるだろう。参加者を限定してみるなど、段階を経ていけば良いと思う。		・近隣の散歩の他、感染防止対策を講じながら地域の行事への参加、併設事業所の利用者との交流の再開を検討していく。
49	総合	本人は、このGHにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・何もやる事がなく過ごす場面もあり充実しているとはいえないと思うが、様々な制限がある中でも職員のかかわりで笑顔になっている時が多い様子。 ・感染防止対策を講じながらご家族との面会や外出、ドライブなど外に出る機会が少しずつ増えてきている。ただ地域との関係性は依然希薄である。 ・日々の支援や活動などを通し健康的な生活の維持・認知症状の緩和に努めている。	・職員の方々は今出来ることを精一杯やっているとと思う。 ・コロナ渦での地域との関わりは難しく、現在も感染の心配があるため、外に出て行くことはリスクがあると思います。その中でも施設に来て頂くことは可能だと思うので地域の方に来て頂ける方法を考えよう。 ・入居者一人一人に何らかの役割があり、それを行うことで喜びに繋がるよう今後に期待したい。 ・入居者の方々にとっては、職員が笑顔で安心安全な対応をしていただけるのが一番の望みであると思う。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・その時々で入居者さまが笑顔になれるような取り組みを継続していく。 ・近隣の散歩の他感染防止対策を講じながら、ドライブなど外に出る機会を少しずつ増やしていく。 ・地域の方がGHに来て頂ける方法を検討していく。 ・ホームの理念に近づけることができるよう、日々の支援や活動を通し健康的かつ認知症状の緩和を図ることができるような支援を追求し取り組んでいく。